

「まちづくり」「仕事おこし」を考える県民集会

in 奈良

日時：2001年11月18日(日)午後1時～

会場：奈良県女性センター

内容：部 リレートーク

野田光雄さん（今御門商店街会長）榎谷実雄さん（奈良県漁業協同組合連合会）佐長勉さん（NaRa 充実社会ネットワーク代表）村上良雄さん（なら NPO センター事務局長）谷山義博さん（大和郡山ハローワーク職員）

部 私たちの提案

池内達雄さん（NaRa 充実社会ネットワーク事務局）永戸祐三さん（日本労働者協同組合連合会センター事業団専務）

「市民発仕事おこしシンポ in 奈良」 の取り組みから地域福祉事業所へ

折居 照美（日本労働者協同組合連合会
センター事業団関西事業本部）

11月18日、奈良県女性センターで開催された「市民発仕事おこしシンポin奈良」に78名の方が集まり、奈良のまちづくり・NPO活動、地域での支えあい活動、漁協の取り組み、職安の窓口から見た雇用情勢などのリレートークと、高齢協・協同労働の協同組合への提案を行いました。

地域での生活を市民自身が支える仕組みとして「地域福祉事業所」が提起され、各地でその取り組みが進んでいますが、奈良ではどうしても初めの一步が踏み出せないでいました。今回のシンポの取り組みを通して、ようやくその糸口が見つかったように感じています。

取り組みの経過

奈良にはセンター事業団の事業所が奈良第1・奈良第2と二箇所あり、主に病院清掃をしています。私たちはこれまで5回のヘルパー講座を開催してきましたが、修了生と共に地域福祉事業所を立ち上げることが出来ませんでした。様々な事情はありますが、事務局自身がどう仕事を起こしていっていいのかわからなかったのだと思います。主体の力量も含め、事務局の確保、核となる人との出逢いなど困難な状況が続いていました。

一方、奈良県高齢者協同組合を「NaRa 充

■ 全国縦断仕事おこしシンポジウム ■

実社会ネットワーク」として2000年5月に立ち上げました。その前年の11月、設立を呼びかけたところ、マスコミ各社が取り上げたこともあり120名以上の方が集まりました。毎月世話人会を開催するのですが、やはり拠点が無いので具体的な事業が進まない。そこで、メンバー所有のワンルームを借りて活動し始めたのが昨年5月です。今年は榛原町のIT講習会の委託がとれたこともあり、何とか運営されていますが「拡がり」という点では、存在自体が知られていないというのが実情です。

地域福祉の核となる事務所がほしい、高齢協のたまり場がほしい、活動を知ってもらいたいと、センター事業団の組合員と一緒にチラシ撒きを始めたのが今年の夏でした。商店街の空き店舗を貸してもらえないかと、県・市をまわりましたが、「高齢者のたまり場」なら「高齢福祉課」へ、「子育て支援」なら「福祉課」へ、「空き店舗の活用」は「商工部」へと縦割り行政の中で右往左往し、行き着いたところが「商店街振興会」。そこでも奈良という古い土地柄が「空いていても貸さない」ところがほとんどで、「斡旋するのは難しいですね」という振興会の事務局にお願いして、各商店街の会長さんの名簿をいただき直談判させてもらうことにしました。

名簿の2件目が、当日報告して下さった「今御門商店会」の野田さんでした。奈良駅近くの猿沢池からすぐのところまで民宿を営まれています。空き店舗を活用した「街の驛」の企画に県からの助成があったということで、翌日、事務局とNaRaネット代表の佐長さんと訪問しました。観光地の活性化と私たちがイメージしていた福祉事業を中心にした生

活地域での商店街活性化とは少し距離がありましたが、佐長さんの「是非取り組みの経験を聞かせてほしい」の一言で、11月18日に講演会をすることがその場で決まってしまいました。

市民に知らせる取組みに

日程が決まったものの、どんな内容にするかのイメージもないまま日が過ぎていきました。そんな時、センター事業団神奈川での全国縦断シンポの企画を見て、開催するなら、こんなに失業者があふれているんだから仕事おこしの取り組みをマスコミにも取り上げてもらおう、これを機会に奈良高齢協を広く知らせようと、奈良でのこれまでのつながりを洗い出しながら思いつく先にあたっていくことにしました。

奈良NPOセンターには既に加盟していましたし、東吉野村は「山間と都市を結ぶネットワーク事業」を掲げ、NaRaネット設立の最初に訪問したところです。代表の佐長さんご自身が、住んでいる公団住宅で「助け合いネットワークひまわり会」を立ち上げておられ、その記事がご縁で高齢協運動を報せ、NaRaネットの代表を引き受けていただいたという経過があります。

「仕事おこし」を訴えるなら職安前でチラシを撒こう、労働組合にも話に行こうと話していたら、高齢協メンバーから紹介されたのが、大和郡山職安管理課長の谷山さんでした。「人が地域で安心して暮らせるということは仕事があってこそ」「今弱者が労働の現場からはじき出されている」「働くことは権利」と言われ、協同労働の協同組合についてのパンフを見せると、「従属労働では本当の

全国縦断仕事おこしシンポジウム

喜びはないのかもしれない。協同労働ということですね」と「労働組合役員として雇用を守らせる立場であるが、理解できる」と支持していただき、当日は報告をお願いすることになりました。

大和高田市を訪問した時、市の委託を受けて配食をしているグループは精神障害者の家族会とその患者だと話されていたことを思い出し、奈良の家族会会長は高齢協のメンバーだったので紹介をいただき訪問。当日の報告は都合がつかなかったのですが、配食事業に大きなヒントをもらいました。

「まちづくり」に関心のある中小企業者はいないかと相談に行った先は奈良県中小企業家同友会です。「今時の経営者は、自社の雇用を守るだけで精一杯」と言われながらも紹介された社会保険労務士の森村さんから、「労働の原点は人の役に立つこと、喜んでもらえたことの対価としての賃金。時間の切り売りでない働き方を求めて社労士になった」と話され、ここでも協同労働の協同組合に対して「こんな考えがあるとは知らなかった、これこそ自分が提案したかった内容」と労協にエールを送っていただきました。海外出張で当日の報告は残念したのですが、私たちの運動に共感し、その困難さをも理解をしてもらえることがわかり大きな力になりました。

「まちづくり」「仕事おこし」の企画で、J・A・連合・自治労・自治労連・教職員組合・労働局などをまわるとどこも熱心に話を聞いてくれ、人間らしく働き・暮らすまちをどう作っていくか、そこに一人一人がどう関わるかはすべての人のテーマだと思いました。

マスコミの影響はすごい

しかし、県庁記者クラブでの説明にはあまり反応が無く、奈良駅前でもチラシ配りもしながら、人が集まるかとても不安でした。そんな時目にしたのが新聞の「痛みの時代に」というシリーズでした。リストラされた人たちの声が出ており、読者からの情報を求めています。自分たちで出資して「仕事をおこし」、運営もみんなで責任を持つという働き方もあるんだ、奈良ではそのシンポをします、とメールを送りました。

若い記者は、協同労働のことはもちろん労協のことも知りませんでした。理念はわかるが、実際にその方式でやっている現場を取材させてほしいということで、京都の「ほんわか」というケアワーカーの事業所を取材されました。奈良には、委託の現場はあっても自分たちで立ち上げた現場がないというのが事実でした。

11月10日、ほんわかの記事(資料1)が出ると、遠方からも問合せの電話が事業本部に殺到しました。「これだと思った」と掛けてきたのは神戸で介護の仕事に携わっている人たちの代表でした。10人位いて、自分たちで納得のいく介護事業を立ち上げたいと思っていたとのこと。滋賀や京都からはそういう職場で仕事がしたいと、早速「ふくろうの家」や「ほんわか」で働き始めた人もいます。山口のケアマネージャーはたまたま帰省先の京都で記事を見た時、シンポが終って半月もしてから、近くのワーカーズ方式でしている事業所を紹介してほしいと連絡がありました。

シンポの当日も、ワーカーズ方式で仕事するにはどうすればいいかと質問されたり、NPOで配食をしているが協同労働を勉強し

■ 全国縦断仕事おこしシンポジウム ■

たいと言う方が交流会に参加されました。御主人がリストラされたという主婦は「自分には何の資格も無く情けなかった」と12月に開講した夜間のヘルパー講座を受講することになりました。

私たちの力不足もあり、その姿がまだまだ知られていないこと、協同労働という言葉は知らなくても、そんな働き方を求めている人がたくさんいることを、今回の取り組みを通して知り、知らせて訴えれば応えてくれる人がいるんだということを確認しました。

奈良では今、委託を受けている病院が新築になり、清掃だけでなく売店と配膳の仕事が増えることになりました。その売店で手作り弁当を売ろう、職員さんにも食べてもらおう、いずれは地域への配食に取り組もうと動き出しました。

新聞記事と同時期に募集広告を出したところ、「記事を見ました。こんな仕事をしているところで働きたい」と出資の取り組みにも理解が早く、立上げ時に給与が保証されなくても、地域で役に立つ仕事がしたいという人が集まってきています。3時間から5時間の仕事を確保しながら、空いた時間を使って地域福祉事業所づくりに取り組む。またシンポ当日に参加できなかった人が後から友達に聞いたと問合せきて、事業所設立の準備と一緒に始めています。新しく事業所を立ち上げるには資金が必要だと、既存現場の組合員は一時金から増資に組み込み100万円近くが集まりました。

奈良のシンポが関西市民会議に先駆けて開かれた経験から、関西市民会議では仕事おこ

し支援として毎月1日を「初めの一步の日」として相談日とすることが決まりました。仕事おこし講座を本格的に取り組んでいく必要を感じています。京都でも引き続き全国縦断シンポを3/2開催することが決まりました。各地での取り組みは、協同労働の協同組合法制化に向けて大きなうねりとなるだけでなく、一緒に働く仲間を増やす取り組みでもあると思っています。

(資料1)

朝日新聞 京都版

2001年11月10日土曜日

痛みの時代に

従業員はみな「社長」ワーカーズコープ奮闘
介護事業軌道、「年商」2000万円

京都の主婦ら経営

みんなが「社長」で「従業員」。そんな新しい働き方が注目されている。「労働者協同組合」(ワーカーズコープ)と呼ばれる。これまでのような「雇う」「雇われる」の関係ではなく、働く人たちが自ら出資し、対等の立場で経営にあたる。雇用情勢が悪化するなか、「仕事おこし」の役割も期待されている。

京都市伏見区の住宅街。民家の一角に、ケアワーカーの派遣を賭け負う労働者協同組合「きょうとケアワーカーほんわか」の事務所がある。従業員にあたる組合員は21人。20人が女性だ。

95年7月、ホームヘルパー養成講座を受講した9人の主婦たちの間で話がまとまった。出資金は1人5万円。事業計画から給与額、仕事の役割など全部、話し合いで決める。担当はあるが、上司も部下もない。

中村恵子さん(45)は、副所長を担当する。パートで生活協同組合の配送をしていたが、94年12月に契約を切られて失業。寝たきりの父親と二人暮らしで20年以上、介護を続けていたこともあって、ヘルパーの資格取得を目指した。講座を主催していた

全国縦断仕事おこしシンポジウム

日本労働者協同組合連合会に労協の考え方を教わり、共感した。

出資金で電話とコピー機を借りた。チラシを5千枚作り、病院や医療器具販売会社に配った。しかし、依頼は来ない。半年間、みんなが無償で働いた。介護保険が導入されたことが追い風になり、昨年から事業が軌道に乗った。常時三十数件の利用があり、売り上げにあたる事業高は年間約2千万円に。収支もようやくトントンになった。

中村さんの月収は約18万円。今夏には初めて8万円のボーナスも出た。「ほんわか」だけが収入源だから生活は苦しい。でも、それ以上に「仲間と一緒に仕事をつくっていく喜び」がある。来年は通所介護の分野にも事業拡大するつもりだ。

日本労働者協同組合連合会によると、労協方式の組合は全国に約100あり、計約3万5千人が働いている。事業高は年間約172億円。組合数、事業高とも年々増えているという。

失業率の高まりを背景に、同連合会は「仕事おこし」としての労協の考え方を広めようと、関東、北海道、九州などでシンポジウムを計画している。近畿では18日午後1時から、奈良市の奈良県女性センターで開かれる。問い合わせは同連合会センター事業団関西事業本部(06-6452-1168)へ。

(資料2)

読売新聞 朝刊 奈良版

2001年11月19日 日曜日

市民の生き方学ば

奈良で県民集会 町おこし、NPOから

相次ぐ企業の倒産、上昇する失業率。生活基盤が崩れつつある時代に、町おこしやNPOの取り組みから市民の生き方を学ぶ『まちづくり』『仕事おこし』を考える県民集会が十八日、奈良市東向町の県女性センターで開かれた。高齢者の生活向上を目指す「NaRa充実社会ネットワーク」(佐長勉代表)などが開催。約七十人が集まり、NPOや商店街の代表らの提案に耳を傾けた。

二部構成で、一部はリレートークとして、奈良市の今御門商店街会長の野田光雄さん、奈良県漁業協同組合連合会榎谷実雄さん、佐長代表、ならNPOセ

ンター事務局長の村上良雄さん、大和郡山ハローワーク職員の谷山義博さんの五人がそれぞれの活動を報告。

村上さんはNPO活動の現状と今後の展望を語った。地域でのIT講習会開催の例をあげ、住民が地域の市民団体などに自前で頼み、様々な活動をしてもらおうと提案。「活動を税金で賄うのではなく、(求める住民が)自分たちで負担して頑張ってもらおう。そんな風土が育てば、仕事づくりにも発展するのでは」と話した。

谷山さんは労働時間を短縮して雇用機会を増やすワークシェアリングを本来の意味で実現するためとして「ちまたにあふれる労働基準法違反、サービス残業を解消するしかない」と強調。人間らしく働くことができるためのワークシェアリングをと訴えた。

二部では、同ネットワーク事務局の池内達雄さんらを取り組みの現状や今後の可能性などを報告した。

池内さんは「県内各地に仕事を求める人らのたまり場を設け、そこで話し合う中で新しい仕事のたち上げをしていきたい」とした上で、そのたまり場の修繕の仕事をはじめ、いろんな仕事を考えていくことが出来る、と抱負を語った。

* 編集部注: 記事中リレートーク発言者の一部が間違っていたので、訂正してあります。

(資料3)メッセージ

Nara 充実社会ネットワーク

代表 佐長 勉様

『まちづくり・仕事おこしを考える』第1回県民集会のご開催、誠にありがとうございます。

今までの経験を生かして、町づくりに取り組んでいかれている佐長代表を初めとする皆様に、深い敬意と感謝を表します。

皆様の今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げております。

平成13年11月18日
衆議院文部化学委員長
衆議院議員 高市早苗